

分野:統合分野 科目:看護の統合と実践 I 看護管理/国際看護/災害看護		単位 (時間)	1 (30時間)	開講 時期	3年次
講師名	実務経験 医療機関において看護師として勤務				
授業概要	<p><看護管理> よりよい看護提供のために、人的資源・物的資源・経済的資源・情報資源を有効に活用するための基本的知識、技術を理解しチーム医療・看護ケアにおける調整とリーダーシップおよびマネジメントができる能力を学ぶ</p> <p><国際看護> 諸外国の保険看護医療の実態を理解し、文化や社会生活背景など異なる人々への看護活動の方法や課題について学ぶ。</p> <p><災害看護> 看護の専門性を発揮した国際協力、貢献のあり方について学ぶ。災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学ぶ。</p>				
到達目標	<p><看護管理> 1. サービスおよびチーム医療の視点から看護管理の基本的知識を理解できる。 2. 看護提供には、人的資源・物的資源・経済的資源が不可欠であることを理解できる。 3. 看護サービスの質評価に必要な指標、理論などを学ぶ。 4. チームとしての看護提供のあり方を理解できる。 5. 今日の医療行政の内容および動向などを踏まえ、看護の仕組みを考えることができる。</p> <p><国際看護> 1. 国際救援活動における知識、技術を学ぶ。 2. 活動の場、対象を知る。 3. 看護職としての国際協力を学ぶ。</p> <p><災害看護> 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。 2. 災害発生時の社会の対応や仕組み、個人の備えや地域防災を理解する。 3. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。 4. 災害サイクルおよび活動の場における看護の役割を理解する。 5. こころのケア、トリアージなどについては体験的に理解する。</p>				
授業計画	回	授業内容	授業方法	講師	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	看護管理【10時間】 看護をとりまく諸制度と法令 医療制度 ケアのマネジメント 看護とマネジメント 看護サービスのマネジメント 終了試験 国際看護【10時間】 国際救援の定義、国際救援活動の基本理念、国際救援活動の現状と課題 国際看護活動における看護の役割 国際看護学とは何か 保健医療の国際協力 国際協力の実際 終了試験 災害看護【10時間】 災害とは何か、災害がもたらす影響 災害医療と看護 災害サイクルと看護活動と支援 災害時のこころのケア 災害救援活動の流れと看護の役割、中長期の災害看護、災害時トリアージ 終了試験			
使用テキスト等	新体系看護学全書 別巻 看護管理 看護研究 看護制度 メジカルフレンド社 配布資料 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護 看護の統合と実践[3] 医学書院 配布資料、トリアージタグ、防災グッズ、家庭における備え、新聞記事				
評価方法	学科試験 出席・演習の参加状況				

分野:統合分野 科目:看護の統合と実践Ⅱ 医療安全・倫理		単位 (時間)	1 (30時間)	開講 時期	3年次後半
講師名	高盛 裕子	実務経験 医療機関において看護師通して勤務			
授業概要	診療の補助や日常生活の援助に伴うリスクから患者を守り、ひいては医療職員の安全及び組織の安全確保に関するセーフティマネジメントを理解し問題解決の技法を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・医療事故を自分自身に生じうる身近な問題として捉える事ができる。 2. 看護・医療事故の防止に関する看護職者の責任と役割を説明できる。 3. 診療補助に伴う種々のリスクを説明できる。 4. 看護を安全に提供するために必要な事故防止策を説明できる。 5. 看護職に求められる倫理的課題をとらえ、その判断や対処方法を理解できる。 				
授業計画		授業内容		授業方法	講師
	1	医療安全と看護の責務、医療安全に関する基本的な考え方			
	2	医療安全と看護の責務、医療安全の国の取り組みと体制			
	3	医療事故発生の仕組み、医療事故、看護事故の構造			
	4	医療事故発生の仕組み、事故発生時の対応			
	5	診療の補助業務における安全活動、診療の補助業務における事故防止の考え方			
	6	診療の補助業務における安全活動、主な診療補助行為における安全			
	7	療養上の世話における安全活動、療養上の世話における事故防止の考え方			
	8	療養上の世話における安全活動、転倒・転落、誤嚥、入浴中の事故、患者誤認			
	9	医療安全活動の実際、事故発生要因の捉え方 事件事例の分析法			
	10	医療安全活動の実際、エラーマネジメント			
	11	医療事故後の対応 KYTによる安全活動			
	12	医療事故後の対応 紛争下の防止対策			
	13	医療事故後の対応 損害賠償			
	14	倫理的問題の分析及び援助方法 事例を通して倫理的課題の分析及び援助の実際			
	15	終了試験			
使用テキスト等	ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版				
評価方法	学科試験、レポート、出席状況				

分野:統合分野 科目:看護の統合と実践Ⅲ 看護研究		単位 (時間)	1 (30時間)	開講 時期	3年次前半 ～後半
講師名	学内教員	実務経験 医療機関において看護師として勤務経験あり			
授業概要	科学的な知識体系を発展させるために看護研究論の基礎を学び理解を深める。 看護研究の目的、意義、倫理、プロセス、など研究論文に必要な学習を踏まえて、研究論文を作成する。 看護行為の振り返りを行い、その根拠や理論を明らかにできる。				
到達目標	1. 看護研究の目的と意義を理解できる。 2. ケーススタディを通じて、文献検索の方法・まとめ方の実際を学び、看護観を深める。				
授業計画		授業内容	授業方法	講師	
		<p>[講義]</p> <p>1 看護研究の種類と特徴、必要性</p> <p>2 看護研究におけるエビデンス</p> <p>3 ケーススタディの進め方、書き方</p> <p>4 ケーススタディのクリティーク</p> <p>5 研究における倫理</p> <p>[演習]</p> <p>6 臨地実習の症例をケーススタディする。</p> <p>7 ●成人、老年、精神看護学実習から1事例選択</p> <p>8 ●研究計画書の作成</p> <p>9 ●ケーススタディの論文の作成</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12 ●ケーススタディのクリティークを行い、発表会準備</p> <p>13</p> <p>14 発表</p> <p>15 発表、まとめ</p>			
使用テキスト等	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社				
評価方法	課題レポート、出席状況				

分野:統合分野 科目:看護の統合の実践Ⅳ		単位 (時間)	1 (30時間)	開講 時期	3年次通年
講師名	学内教員、臨床看護師	実務経験	看護師		
授業概要	今まで習得した知識、技術、態度を統合し、常に変化する患者の状況に応じた総合的な判断力、実践力を養う。看護技術の安全・安楽の評価、卒業後も継続して技術の評価が自らできるプロセスを学ぶ。				
到達目標	<p>複数患者に対する看護の実践</p> <p>1. 複数患者に必要な行動計画を根拠と優先順位に基づいて立案できる。</p> <p>2. 患者のニーズを援助に必要な時期を考え、チーム間で連携がとれる。</p> <p>看護技術の統合</p> <p>1. 実習において経験の低い診療の補助技術について演習を通して連携ができる。</p> <p>2. 事例の状況に応じた看護援助の方法を考案できる。</p> <p>3. 実践能力を自ら評価でき課題を見出すことができる。</p>				
授業計画	回	授業内容	授業方法	講師	
	1	優先順位を判断する視点(複数患者の受持ち) 事例1~3の演習	講義 演習		
	2	事例1~3の解説	講義		
	3	複数患者の受持ち 記録方法(様式Ⅱ、行動計画表) ・アセスメントの視点・スケジュール立案の実際	講義		
	4	・2事例アセスメント→問題点抽出 必要な援助、スケジュール立案	演習		
	5	・2事例アセスメント→問題点抽出 必要な援助、スケジュール立案	演習		
	6	リフレクション展開について 輸液中の寝衣交換	講義		
	7	輸液中の寝衣交換	演習		
	8	持続導尿カテーテル挿入	講義		
	9	持続導尿カテーテル挿入	演習		
	10	輸液管理(輸液交換、Ⅳ)	講義		
	11	輸液管理(輸液交換、Ⅳ)	演習		
	12	場面設定(多重課題演習)	演習		
	13	ストーマ管理	講義		
	14	ストーマ管理	講義		
	15	ストーマ管理	演習		
		終了試験			
使用テキスト等					
評価方法					

分野:統合分野 科目:在宅看護論臨地実習		単位 (時間)	2 (90時間)	開講 時期	2年次～ 3年次
講師名	臨床指導者・臨床指導教員/保健師	実務経験	看護師・保健師		
授業概要	地域、社会で生活する人々の健康及び福祉について保健福祉センター、訪問看護ステーション、老人福祉施設の活動の現状を知ると共に在宅看護の機能と役割の実際を学ぶ。				
到達目標	1.在宅看護の現状と対象について理解する。 2.在宅看護の役割と援助の実際について理解する。				
授業計画	回	授業内容	授業方法	講師	
		在宅看護論Ⅰ(保健福祉センター)【30時間】 目的:地域保健活動の第一線機関である保健福祉センターにおいて地域で生活する人々の健康管理がどのように行われているか把握し、援助の方法を学ぶ。地域における看護活動の実際を学び、看護の継続性を考える。 目標 1)保健福祉センターの機能、活動の実際を学ぶ。 2)人々の健康の回復・保持・増進、疾病予防のためにいかなる保健衛生活動がなされているかを学ぶ。 3)施設内看護と地域看護との関連を知り、継続看護の必要性を理解する。	実習	臨床指導者 臨床指導教員	
		在宅看護論Ⅱ(訪問看護ステーション)【30時間】 目的:地域で在宅療養をしている人及びその家族への援助活動の実際を通して看護の役割を学ぶ。 目標 1)在宅看護の現状と対象について学ぶ。 2)在宅看護の役割と援助の 3)在宅看護のあり方について考えることが出来る。	実習	臨床指導者 臨床指導教員	
		在宅看護論Ⅲ(老人福祉施設)【30時間】 目的:在宅サービスを受けながら地域で生活している対象を理解し、介護老人福祉施設における看護の役割と在宅支援の方法を学ぶ。 目標 1)在宅サービスで施設を利用している対象者を理解する。 2)施設利用者との関わり方を通して、利用者との接し方を理解する。 3)施設利用者に合った日常生活の拡大、自立のための援助を学ぶ。 4)対象者の生活を支える職種の役割とその連携を理解する。	実習	臨床指導者 臨床指導教員	
使用テキスト等	医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				
評価方法	目標に対する到達度と実習態度をA～Cの3段階で評価。評価項目の合計点数を評価項目で除し指導者50点満点、教員50点満点を足し合わせて100点評価とする。(臨床指導者評価50%、教員評価50%)				
<p>※評価基準 A:50点非常に良い B:30点ほぼよい C:10点やや課題が残る</p> <p>※在宅看護論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの評価を総合して3で除した成績を最終成績とする。</p>					

分野:統合分野	科目:看護の統合と実践実習	単位 (時間)	2 (90時間)	開講 時期	3年次
	臨床指導者・臨床指導教員			看護師	
授業概要	看護チームの一員として業務を通して知識・技術・態度を統合し看護実践能力を身につける				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受持ち、看護援助の優先度が判断でき看護実践ができる。 2. チームの一員として看護活動の実際を理解できる。 3. 看護管理の実際を理解できる。 4. 治療・処置・検査に伴う技術を安全に実施できる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ①実習前にオリエンテーションをうけ、事前学習を行い実習に臨む。 ②複数患者の受持 				
評価方法	実習要綱【看護の統合と実践臨地実習】参照(臨床評価50%、教員評価50%)				